海外レポート	**インド　ベンガルール**

「多様化・オンデマンド化が進むインドのモビリティ市場」

田中　啓介

＜多様化が進むインドのモビリティ市場＞

人口がついに世界一となったインドですが、都会の交通事情は決してよいものだとは言えません。交通に関するさまざまな問題を解決すべく、インドのモビリティ市場の発展が進んできています。インドでは電気自動車の開発や自動車シェアリングなど、多様なサービスが展開されています。その背景にあるのが深刻な大気汚染と渋滞です。

自動車シェアリングはライドシェアと車両シェアの二つから構成されます。自動車シェアリングには、渋滞の解消以外にも交通費の節約、新規の雇用創出、高騰するガソリンの節約などのメリットが挙げられ、すでにインドでは広く普及しています。特にインド政府は電気自動車の普及に力を入れています。

FAME Ⅱ (Faster Adoption and Manufacturing of EVs in India Phase Ⅱ)に代表されるインド中央政府が実施する国内 EV 普及促進プログラムもあれば、各州による電気自動車を推進するための政策もあります。

＜オンラインで利用できるモビリティサービス＞

インドで展開中のオンデマンド・モビリティサービスには下記が挙げられます。

- マイクロモビリティ
- ライドヘイリング
- ライドシェア
- 車両サブスクリプション

マイクロモビリティとは、近距離を 1 人で移動するための手段のことです。Bounce、Yulu、Zypp は電動スクーターのレンタルを行っており、中でも Yulu はベンガルール、プネ、デリー、チェンナイ、コルカタなど主要な大都市でサービスを展開しているトッププレーヤーです。

ライドヘイリングは、AirBnB では宿泊施設と宿泊者の 2 方向にサービスが提供されるように、2 者に対して提供される送迎サービスのことを指します。グローバル企業では Uber がライドヘイリングに当てはまります。Ola と Uber が長年インド市場のライドヘイリングの 2 大プレイヤーでしたが、現在は BluSmart が注目を集めています。

ライドシェアは、近い目的地を目指す複数人が一つの車両を共有するサービスです。例えば、Quick Ride はオフィスに通う会社員のためのライドシェアで、「We are on a mission to remove 1 million cars from the roads, everyday.（毎日 100 万台の車両の走行を減らすことが我々のミッションだ）」と掲げています。交通費の節約、温室効果ガス排出量の削減、同乗で生まれるネットワークをベネフィットとして挙げ、ライド選択の際にはマッチング要素も含まれています。

車両サブスクリプションは、車両のシェアのためのプラットフォームです。Zoomcar はインドのレンタカー市場でも最大規模を誇っており、煩わしいペーパーワークなしでアプリやウェブから車両の予約ができます。インドでは 1 日単位でのレンタルが主流ですが、Zoomcar では近距離や短時間でのレンタルにも対応しています。また、所有している車両をレンタカーとして貸し出すことも可能です。

＜インドのモビリティ市場がさらに活発に＞

日本が技術面・資金面で支援しているメトロや長距離鉄道などもありつつも、個人による車両の移動がまだまだインドでは主流です。しかし、人口の多さも相まって大気汚染や渋滞が世界最悪レベルに達しており、政府も状況の改善に本腰を入れて取り組んでいます。

インド政府は中でも電気自動車の普及を強く推進しており、今後も電気自動車を中心に据えたスタートアップ企業によるモビリティ改革が進んでいくことが予想されます。